

第11回韓日未来フォーラム報告書

第11回韓日未来フォーラム実行委員長

村田 佐希子



第11回韓日未来フォーラムは、2019年8月13日から16日の3泊4日、島根県立青少年の家サン・レイクに行われた。今回の参加者は韓国人16人、日本人14人、計30人の大学生だった。

まず、今回の韓日未来フォーラムは、参加者にとっても、私たち実行委員長にとっても大変意味のあるフォーラムになったのではないかと、思う。なぜなら、日韓関係がひどく悪化した状況で行われたフォーラムであったためである。韓日未来フォーラムは2014年から毎年行われているフォーラムであるが、こういった状況下で行われたことはないだろう。韓日未来フォーラムは行政ではなく、民間が行っている日韓交流、そしてフォーラム開始1ヶ月前に日韓関係がひどくなったために、フォーラム自体を中止する、という提案は出てこなかった。そのおかげか、多くのメディアから注目された。メディア露出による長所、短所はあったが、それに関しては後ほど述べたい。



今回のフォーラムのテーマは「在日朝鮮・韓国人」、「強制徴用労働者問題」、「ジェンダー/フェミニズム」、「日韓

の観光産業」の4つに決めた。フォーラム期間中は主に、参加者同士の討論を中心に、出雲大社でのフィールドワーク、そして最後にはチームで討論した内容を発表した。私は、実行委員長という立場にあったため、ジェンダー/フェミニズムチーム担当ではあったが、すべての討論に参加できたわけではなかった。また、他のチームに関しても同様にどこまで議論をしていたか、発表まで詳しく知ることはできなかった。しかし、討論中の全体的な雰囲気はよかったのではないかと思う。各チーム、ファシリテーターが中心となってお互い伝えたいことを言い合い、議論していたと思う。もちろん、各方面の知識には個人差が出た。参加者の知識の差を埋めるために、どこまで実行委員が誘導することができるか、毎回実行委員の議題として残る。次回のフォーラムでも実行委員同士で話し合い、参加者の助けになるようにしたい。また、今回のフォーラムで改めて感じたのは通訳の難しさである。私たちのフォーラムでは、主に学生で討論通訳が可能なレベルの学生に通訳お願いしており、プロではない。もちろん高水準な語学レベルではあるが、通訳になれているわけではないので、私たち側にも配慮が必要である。今回、そうした促しをあまりできなかったのが、次回のフォーラムでは実行委員から積極的に参加者にお願いしていこうと考えている。

発表に関してだが、各チームの発表ごとに質問が3問ずつくらいは出ていた。特に「強制徴用労働者問題」チームの発表では、質問が多く飛び交った。徴用工問題のみならず、さまざまな問題に関連して質疑応答が行われたので、活発な発表であったと思うが、一方



でテーマに沿った質問があまり出なかった点が少し残念であった。また、質問者は韓国人参加者が主にしていたように感じられた。しかし、例年に比べて日本人参加者も質問をしていたと思う。

フィールドワークだが、出雲大社は日本人でもあまり行く機会がない観光地なので、みな楽しそうにしていた。毎回、神社に行くことを嫌がる韓国人がいるのではないかと不安におもうのだが、今回はそうした素振りを見せることなく、それぞれのチーム盛り上がっていた。今回の夏のフォーラムでは、前回同様、討論、フィールドワーク、宿泊の相手があまりかぶらないように設定した。それが功を奏したのか、偏りなく交流でき、全員で仲良くなれたのではないかと思う。

最初に述べたように、今回のフォーラムは多くのメディアが来ていた。放送局3社、新聞2社、ラジオが1社である。今まででも多くのメディアがフォーラムを取り上げてくれたが、全国放送のテレビ番組が来たのは初めてではなかろうか。今回、メディアに取り上げられたことによって、私たちが行っている活動の意義を伝えることができたのではないかと思う。単に仲良しで終わるのではなく、歴史やそれぞれの率直な考えを知ることにより深まる交流という目的を広めることができたのは意味があることだと思う。また、番組が

放送時、主催団体名、フォーラム名が出ていなかったが、今考えると、こういった状況下でのテレビ局側の配慮だったのではないと思う。私たちも、横断幕をかけるのを忘れていたが、今思ったらかけなくて正解だったのかもしれない。しかし、次回から注意したい。

メディアに露出することのデメリットとして、まず参加者側にストレスがかかったのではないと思う。結構な台数のカメラに囲まれながら討論は思う存分できたのだろうか、と不安である。次に、やはり番組放送後の日本のツイッターでの反応である。ネット右翼、歴史修正主義的考えを持つツイッターユーザーから番組は批判されていた。そう考えるとやはり参加者側への負担が大きい気がする。次回のフォーラムに関して、もしメディアから取材申し込みがあった場合、実行委員同士で話し合い、よく検討したいと思う。

最後に、繰り返すが、今回のフォーラムでは参加者同士が大変仲良くなっていた。私もそうだが、フォーラムに参加したことで、今でも付き合いがある友達が多くいる。今回の参加者にとっても、フォーラムがより一層の交流の機会になることを願う。

